

ツを製作できた。今後スマートフォンに対応したコンテンツも考えていきたい。

P2-37.

東京医科大学教育 IR センターで実施した卒業時アンケートの結果からみた医学部医学科および看護学科の教育の状況

(教育 IR センター)

○菰田 孝行、河上 恵、荒井 貞夫

(看護学科、教育 IR センター専門委員会)

小林 信、成瀬 和子、瀬戸山陽子

(生物学、教育 IR センター専門委員会)

篠田 章

(公衆衛生学、教育 IR センター専門委員会)

井上 茂

(医学教育学、教育 IR センター専門委員会)

R. ブルーヘルマンズ

(呼吸器内科、教育 IR センター専門委員会)

瀬戸口靖弘

(総合診療科、教育 IR センター専門委員会)

平山 陽示

(耳鼻咽喉科・頭頸部外科、教育 IR センター専門委員会)

大塚 康司

【背景】 東京医科大学教育 IR センターは、2015 年 4 月に設置された。医学科・看護学科の教育に関する諸情報を収集・分析し、教育の向上に寄与することが目的である。教育 IR センターには、IR に関する専門的課題に対応するために、専門委員会が設置されている。専門委員会の役割は、IR センターが収集したデータと分析結果について審議し、必要な情報を教授会等に教育改善、学生指導のための資料として提出することであり、11 名の委員で構成している。教育 IR センターの業務は、学生の成績、カリキュラムや教育活動、卒業後のキャリアに関するデータ収集、管理、分析、情報提供などである。教育活動に関するデータ収集業務の一環として、卒業直前の学生を対象にした「卒業時アンケート」をはじめ、学内における各種調査を実施している。

【目的】 東京医科大学医学部にて実施された卒業時アンケートの結果を分析し、特に、初の卒業生となる看護学科の状況に着目して、東京医科大学の教育改善への視座を得る。

【方法】 調査時期は 2017 年 2 月。対象は東京医大医学部医学科 6 年生及び看護学科 4 年生。医師・看護師国家試験の事前説明や事後指導の時間等に、学務課員が調査用紙を配布し、記載後に回収した。調査は記名式で実施した。回答率は、医学科 65.1% (86 名回収)、看護学科 88.8% (71 名回収) であった。調査内容は、① 授業や活動で身につけた能力 ② カリキュラム等への満足度 ③ 東京医大への総合的な満足度、などであり、医学科と看護学科で異なる質問項目もある。

【結果】 医学科と看護学科で共通して質問された東京医大への総合的な満足度では、両学科共に肯定する割合 (医学科・93.0%、看護学科 77.1%) が高かった。さらに、看護学科のみで質問された「教育に関する到達目標」の項目でも、達成したと回答する割合 (6 項目の平均: 86.4%) が高かった。

【考察・結語】 医学科および看護学科の両卒業生共に、東京医大に満足しているという意識は高く、本学の教育が概ね学生に受け入れられたことを推測する材料の一つと考えられる。一方、継続的にカリキュラムを改善していく必要があることも示唆された。

P2-38.

e-ポートフォリオにみる臨床参加型実習の時間経過に伴う実習生の関心の方向性

(産科婦人科)

○野平 知良

(医学教育学)

油川ひとみ

【緒言】 第 6 学年時に臨床参加型実習が導入されてから 3 年が経過した。チームに参加した彼らが何を感じ何に関心を持ったかを知ることは、来年度以降、長期にわたる臨床実習で学生の内発的動機付けを惹起・持続させる指導法を検討する上で重要な情報であると思われる。産科婦人科では、日々の振り返り以外にも教員と学生間の連絡ツールとして 2015 年より e-ポートフォリオの「日誌」欄 (以下、「日誌」) を積極的に活用してきた。今回我々は e-ポートフォリオ上の第 6 学年の「日誌」内容を質的に分析することで仮説生成し、量的研究でそれを検証した。

【対象・方法】 2016、2017 年度の I~IV 期に産科